

様式2 令和2年度 清瀬市立 清瀬第三小学校 学校評価表 (中間)

学校教育目標	○よく考え やりぬく子ども(重点目標) ○やさしく 思いやりのある子ども ○明るく 元気	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)	<p>【目指す学校像】 地域の風が行き交う学校 ○「共に学んでよかった、明日も学びたい」といえる学校</p> <p>【目指す児童・生徒像】 「他者と協働して主体的に問題を解決しようとする子ども」</p> <p>【目指す教師像】 ◎進んで学び合い、責任をもって教育活動を遂行する教師 ・児童一人一人と信頼関係を築き、個々のよさを引き出す教師 ・保護者や地域と連携する教師</p>	<p>【育成を目指す資質・能力】</p> <p>「協働問題解決能力」</p> <p>○基礎的な力(言語、数量、情報スキル)</p> <p>○他者と共に考える力(協働問題解決力、メタ認知)</p> <p>○他者と共生できる力(人間関係形成力)</p> <p>○社会の中で実践する力(社会参画力、自律的活動力)</p>
【特色ある教育活動】	重点1 「協働問題解決能力」を中心に学力の向上を図る 重点2 他者と共生できる豊かな人間性を育む 重点3 「協働問題解決能力」を育む学校支援本部の活動を保障し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	

前年度までの学校経営上の成果と課題

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
		取組指標	成果指標		
確かな学力の向上	1時間の学習展開の中で全員が自分の考えを表現する場面を作り、全員参加の授業をつくる。	3	3	低学年では、技能面の課題により、ベア学習の際に自分の考えを表現できない児童がいた。中・高学年でも、自分の考えをもったり、それを表現したりすることが苦手な児童がいたほか、表現すること自体はできても、相手に分かりやすくは伝えられない児童がいたため、そのような児童への指導や配慮が必要である。また、進んで発言する児童が固定化する傾向にあるので、適宜教員が指名して発言を促すようにするなど工夫をしていく。	マスクをつけての授業で表情がわかりにくいなど様々な制約のある中で工夫しながら授業を進めていると感じる。これから感染状況を見ながら、徐々に発表する場などを通して、全員で学ぶことを実感し、達成感を味わってほしい。
	どの子どもすすんで書きたくなる課題づくりやグループ学習の方法を工夫し、考えを広げたり深めたりできる授業をつくる。	3	3	課題提示の工夫が、児童の意欲にも繋がってきた。ただ、低学年では、課題に積極的に取り組める児童と、課題把握に個別支援を要する児童とに二極化している様子が見られる。このため、個に応じた支援を行い、より楽しく課題に取り組めるようにしていく。また、高学年でも、理解の深さに差が見られるので、よい記述や発言はみんなで見つけ、全体の学びを深められるようにしていく。	「書く活動」を通して、児童の言語能力・思考力の育成を目指す中で、「ノート大賞」を試みている。教師の指導により児童ががんばった結果のノートは、児童・教員の双方の意欲が高まるであろう。
豊かな心の育成	「挨拶と返事」が確実に身につくように、学年・学級で工夫して取り組む。児童会での取組を強化し、児童が自分から挨拶できるよう意識の向上を図る。	3	3	低学年では、挨拶と返事は定着しているが、学級外になどできない児童が多いため道徳の授業等を通して継続した指導をしている。中学年では、専科教室での授業では、挨拶をして入室し、退室する時には挨拶をするように指導をして、身につけている。だが教職員とすれ違っても挨拶ができておらず、自分から挨拶する児童も少ない。高学年では、積極的に挨拶をする児童とそうでない児童に分かれている。また、授業中に指名されたときや生活の中で名前を呼ばれた際に返事をしない児童も見られるので、まだまだ継続して指導が必要である。学校だけでなく家庭での実践も必要である。	校内・校外とも顔がわかっている関係であれば、互いに挨拶ができていく。コロナ禍で制限がある中で、改めて会えることの大切さ、挨拶を交わすことの大切さを感じさせてほしい。
	どの子ども学級に居場所があるように、いじめ未然防止の取組を学年毎に工夫して行う。	4	3	低学年では、道徳の年間計画に位置付けて計画的に指導している。中学年では、嫌だったことはすぐに解決できるように、児童に安心感をもたせることができる学級づくりを行っている。児童への対策が遅れることもあった。すぐに連携をして、学年外の先生にも相談をして早めに取り組んでいく。高学年では、友達のことを考え、「教室をみんなが過ごしやすい場所にしていこう」と考え行動できる児童が増えてきた。ただ相手を傷つける言葉言ってしまう児童もいるので、継続的に指導していく。	どの子にも居場所があるために、いじめ未然防止の取組に道徳がどのように活用されているか知りたい。道徳の授業を実際に見る機会を得たい。それぞれの学年に合った工夫を行ってほしい。
健やかな体の育成	体力向上旬間の取組では、個人や学級毎に目標数値を掲げて取り組む。	3	3	なわとびについて低学年は、休み時間を利用して目標達成のためにクラスで練習をしながら、中学年はすべての児童が目標をもって取り組むことができたので、継続できるように指導していく。またその他の運動について、高学年は「テニソン」や「走り幅跳び」などは思い切り体を動かすことができたので、「バスケットボール」や「サッカー」等を以前通りに実施する方法を考えていく。また、家庭でできる取組を紹介していく。	コロナの影響で密を避けての休み時間の校庭利用になっている。今後は体育朝会を工夫して行うと聞いている。低・中・高学年とそれぞれ目標を持って取り組んでいることは素晴らしい。できる限り体を動かす機会を設け、体力向上に努めてほしい。
	「早寝早起き朝ごはん」点検の結果等を使って、児童と保護者に対して生活習慣への啓発を工夫して行う。	4	3	どの学年も周知した結果、ほとんどの家庭は気を付けてくれているが、意識の低い家庭もあるので保護者会や学年便りで啓発していく。また、高学年になると習い事の影響やネットゲームの影響もあり、早寝できない児童がいる。引き続き児童や保護者に啓発をしていく。	休校中にSNSやゲームにはまってしまい、朝起きることができずに「早寝・早起き・朝ごはん」のリズムが崩れてしまった児童もいるようだ。生活習慣の啓発を引き続き、工夫して行ってほしい。
特別支援教育の充実	週1回の校内委員会・年3回以上の研修会を実施し、個別支援が必要な児童についての共通理解を図り、指導・支援の方法を共有し、指導に当たる。	4	3	個別に支援を必要とする児童について、校内委員会や生活指導全体会で情報共有し、指導に生かすことができた。	校内委員会や生活指導全体会等で個別に支援が必要な児童についての情報共有を行っている。学校全体での情報共有は非常に大切である。指導の在り方や成果と課題について十分に検討してほしい。
	保護者会の際に特別支援コーディネーターによる説明や資料提供を行う。	3	3	三小スタンダードを意識して教室の環境を整えることができた。きりぎりしを保護者にも関心をもち目を通していただけるよう、教員からの声かけを行っていく。きりぎりし授業や読み書きアセスメントの資料や結果を持ち帰らせ、家庭で話し合う機会をつくった。	「三小スタンダード」は、近隣の学校にも広がり、どの子どもも過ごしやすい環境づくりができつつあると感じている。特別支援について保護者にも児童にも理解してもらい機会を作ることはい、きりぎりしを全家庭に配布することで、保護者にも関心をもってもらえていると思う。
本校の特色	感染症対策を図った上で、異学年交流を図ると共に、学年ごとに地域や保護者等との参画型授業・出前授業等を計画的に工夫して行う。	3	3	例年より回数数は少なくなりましたが、交流を通して成長を感じた児童も多く、有意義な時間となった。今後も感染症対策を行いながら、できるだけ異学年交流をしていく。また、出前授業等も、地域の方と連携をしてできることは計画的に行い、交流を通して色々なことが学べるようにしていく。	感染症対策を十分に図った上で、できるだけ異学年交流を行っていく努力を感じる。「できることを計画的に行い、交流を通していろいろなことが学べる」という考えに賛同する。地域としても惜しまず協力したい。
	読書への興味を高める取り組みを、学期毎・学年毎に計画して実施する。計画的に俳句作品の掲示や発信を行う。	4	4	・感染症対策に気を配り、距離をとって読み聞かせを行ったり、図書室の本を消毒したりすることで本に触れる機会を確保してきた。また、百科事典の使い方も、図書支援の先生に授業をして頂く機会も設けた。その結果、休み時間などに意欲的に読書をする児童の姿が多く見られた。 ・児童が読む本に幅があるので、様々なジャンルの本を紹介し、幅広い読書ができるように読書会を開催していきたい。 ・定期的な俳句作りを行うことで、児童が季節を意識しながら俳句作りを行っている。また、レベルの高い作品も数多く見られるようになった。今年は季節ごとの作品作りを継続していく。	図書室の感染予防対策を行いながら読書活動を進めている。図書支援員から百科事典の使い方など計画的に指導してもらっている。また、俳句作りにも積極的に取り組んでいる。地域として、校外や近隣の施設などに掲示し児童の頑張る機会をつくっていききたい。